

2 アンケート調査について

アンケート調査の概要は以下のとおりです。福祉用具貸与事業所の管理者、福祉用具専門相談員のほか、ケアマネジャーやリハビリテーション専門職の皆さんにもご協力いただき、多くの方から回答を得ることができました。

(1) 調査対象

| | |
|----------------|-----------------------------------------------------------------|
| 福祉用具貸与事業所 | 管理者および福祉用具専門相談員 ※福祉用具供給協会会員事業所 ※介護サービス情報公表システムのデータより無作為抽出 |
| 居宅介護支援事業所 | 介護支援専門員 ※介護サービス情報公表システムのデータより無作為抽出 |
| 通所リハビリテーション事業所 | リハビリテーション専門職 ※介護サービス情報公表システムのデータより無作為抽出 |
| 訪問リハビリテーション事業所 | リハビリテーション専門職 ※介護サービス情報公表システムのデータより無作為抽出 |

(2) 調査方法

自記式調査票の郵送配布・回収

(3) 調査時期

2014年12月～2015年1月

(4) 回収状況

| | | 発送数 | 回収数 | 有効回答数 | 有効回答率 |
|------------------|------|------|-----|-------|-------|
| 福祉用具専門相談員 | | 2000 | 664 | 663 | 33.2% |
| 福祉用具専門相談員（管理者） | | 2000 | 718 | 718 | 35.9% |
| 介護支援専門員 | | 1000 | 379 | 378 | 37.8% |
| リハビリテーション 専門職 | 通所リハ | 500 | 164 | 164 | 32.8% |
| | 訪問リハ | 500 | 191 | 191 | 38.5% |
| | 計 | 1000 | 355 | 355 | 35.5% |

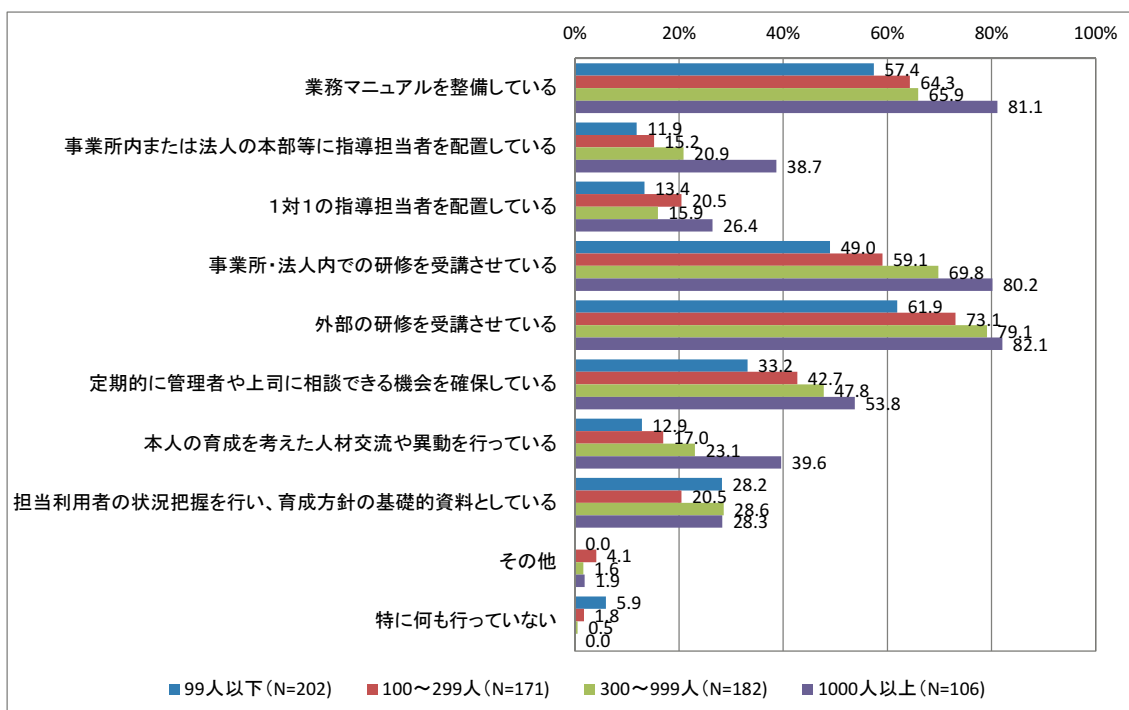
主な調査結果は以下にご紹介します。

事業所における人材育成・研修について

職員の能力開発や育成

「外部の研修を受講させている」「業務マニュアルを整備している」、「事業所・法人内での研修を受講させている」の順に多くなっています。利用者数が多い事業所のほうが能力開発・育成内容が充実していることがわかります。

図表 1 職員の能力開発や育成（福祉用具貸与事業所 管理者）

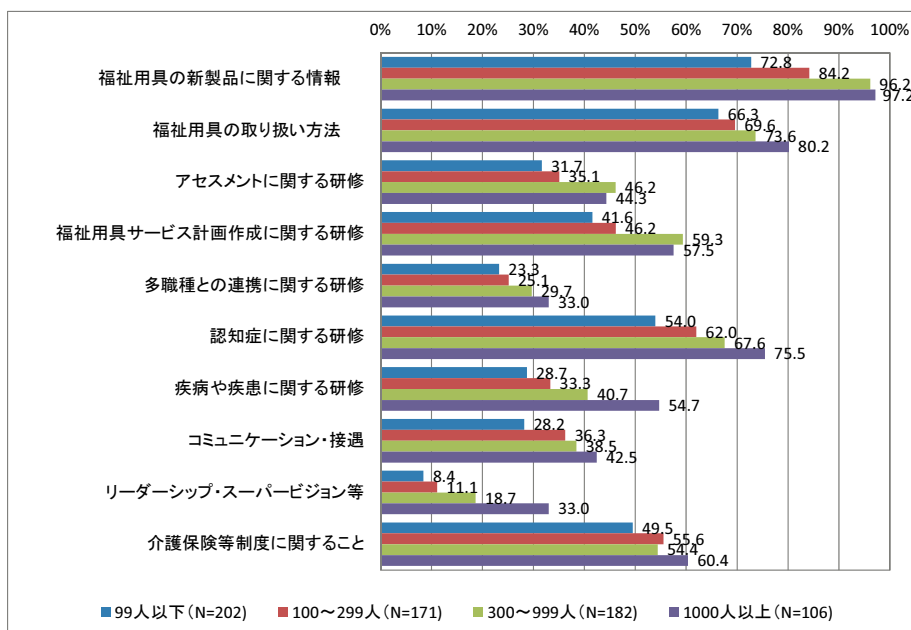


研修の計画・実施

① 実施している研修テーマ

「福祉用具の新製品に関する情報」が最も多く、次いで「福祉用具の取り扱い方法」、「認知症に関する研修」の順に多くなっています。利用者数が多い事業所のほうがいずれのテーマについても実施している割合が高くなっています。

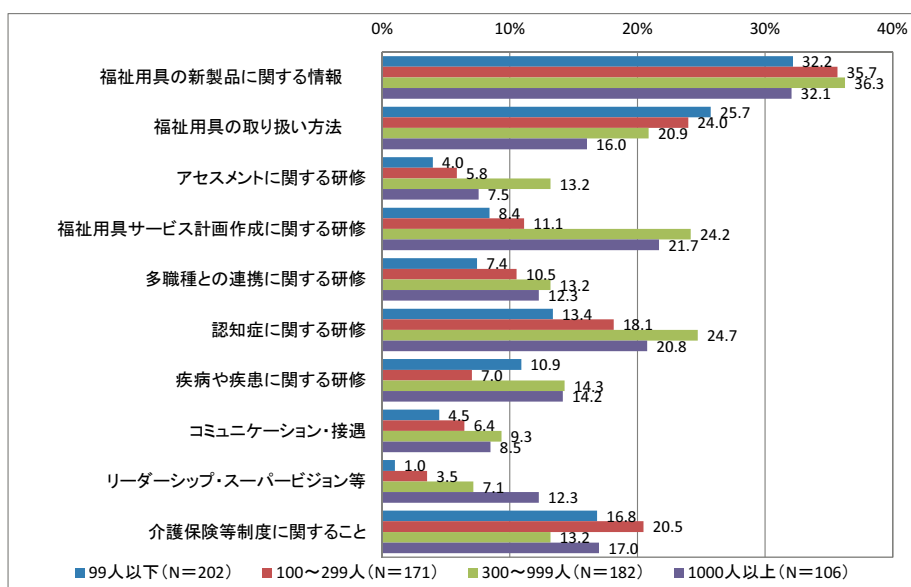
図表 2 実施している研修テーマ



② 外部研修している研修テーマ

外部研修している研修テーマは、「福祉用具の新製品に関する情報」が最も多く、次いで「福祉用具の取り扱い方法」、「認知症に関する研修」の順に多くなっています。

図表 3 外部研修している研修テーマ



福祉用具専門相談員に対する評価

福祉用具専門相談員の「職業倫理・役割についての理解」「専門知識」「業務遂行能力」について、事業所管理者による評価、福祉用具専門相談員による自己評価、そして介護支援専門員による評価を行いました。

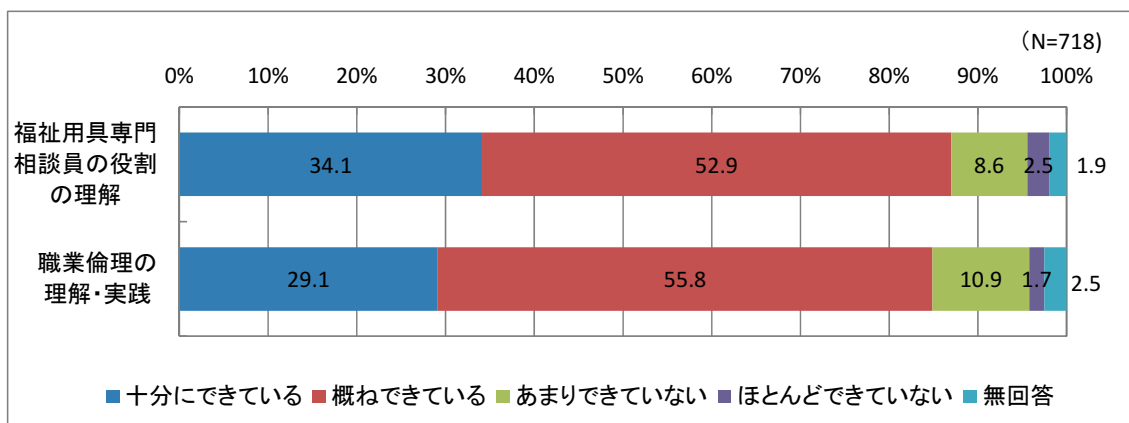
福祉用具専門相談員の評価

事業所管理者による評価、福祉用具専門相談員による自己評価の結果は以下のようになりました。

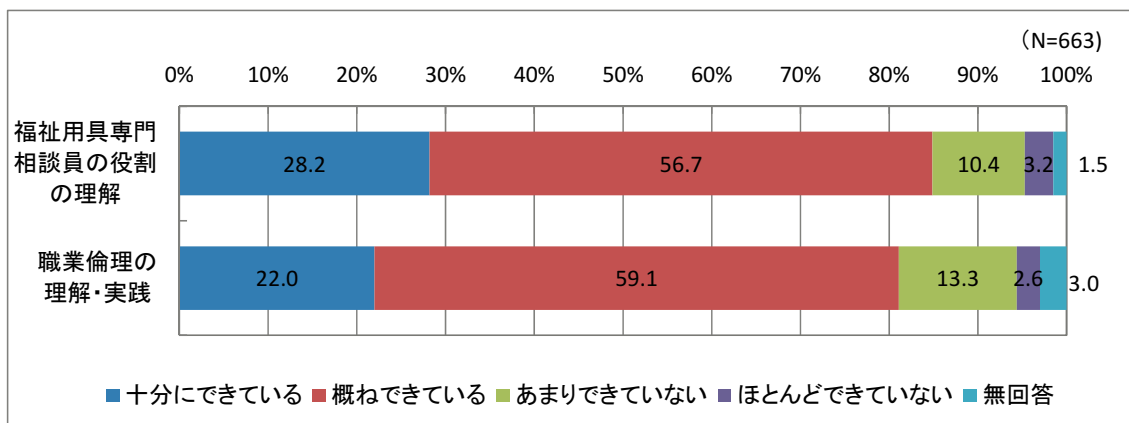
① 職業倫理・役割

事業所管理者による評価、福祉用具専門相談員による自己評価はともに、「福祉用具専門相談員の役割の理解」「職業倫理の理解・実践」のいずれについても、「十分出来ている」「概ね出来ている」の合計が8割を超えています。事業所管理者のほうが少し高く評価しています。

図表 4 職業倫理・役割（事業所管理者による評価）



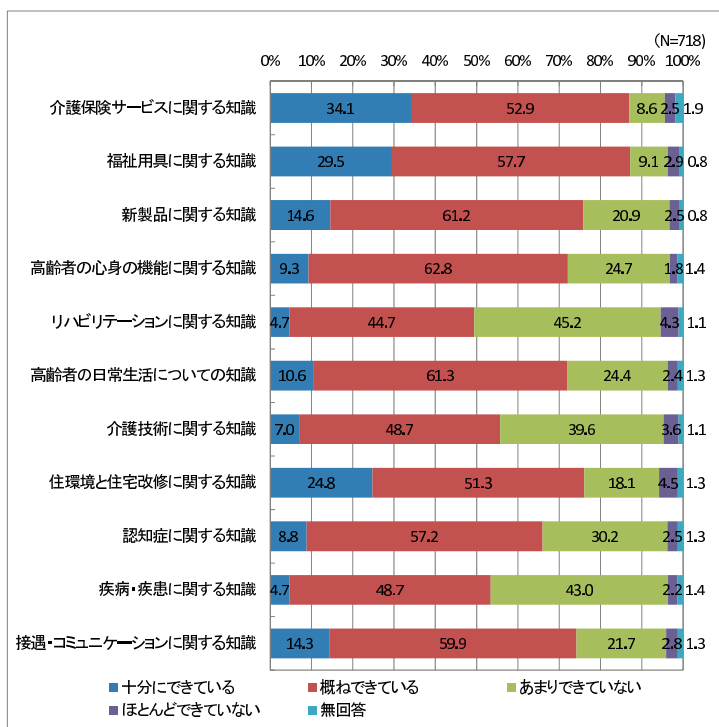
図表 5 職業倫理・役割（福祉用具専門相談員の自己評価）



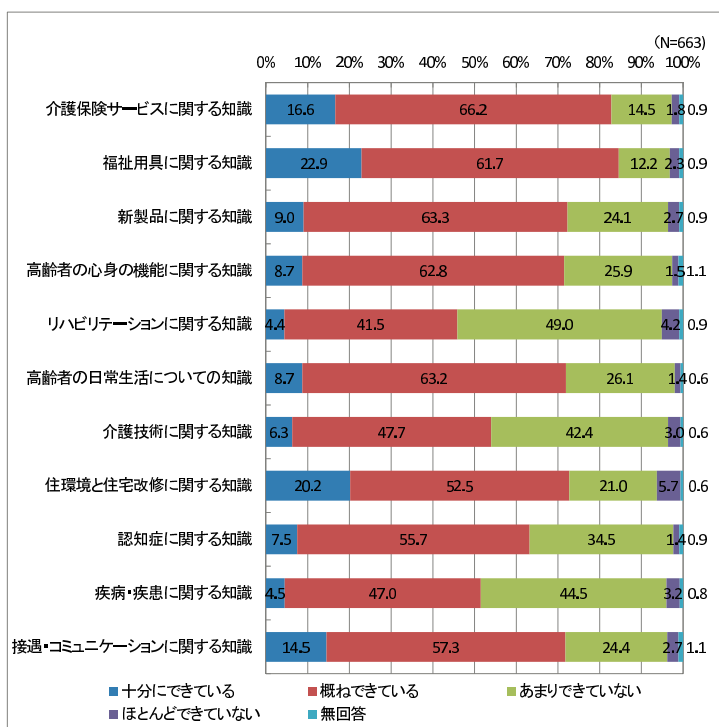
② 専門知識

事業所管理者による評価、福祉用具専門相談員による自己評価はともに、「十分できている」「概ね出来ている」の合計の割合が比較的高いのは「介護保険サービス」「福祉用具」に関する知識、比較的低いのは「リハビリテーション」「介護技術」「疾病・疾患」に関する知識となっています。ほとんどの項目について、事業所管理者のほうが少し高く評価しています。

図表 6 専門知識（事業所管理者による評価）



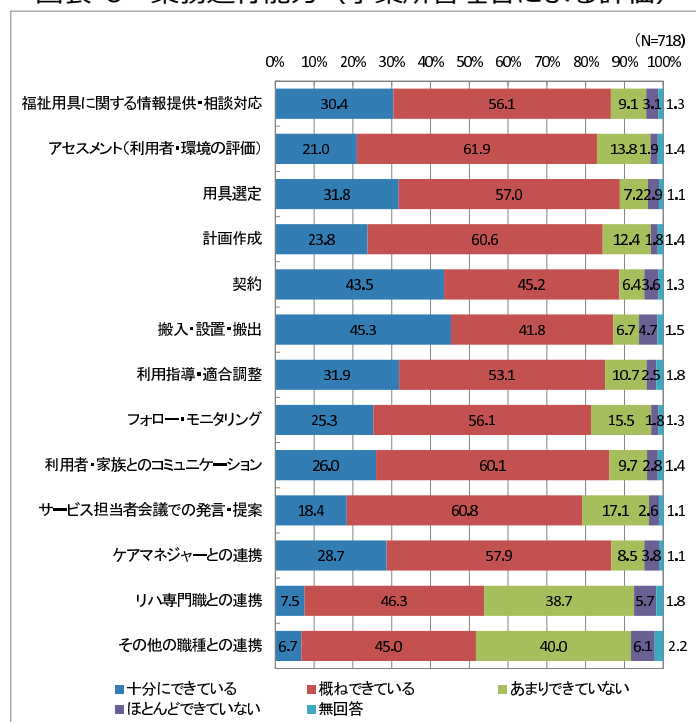
図表 7 専門知識（福祉用具専門相談員の自己評価）



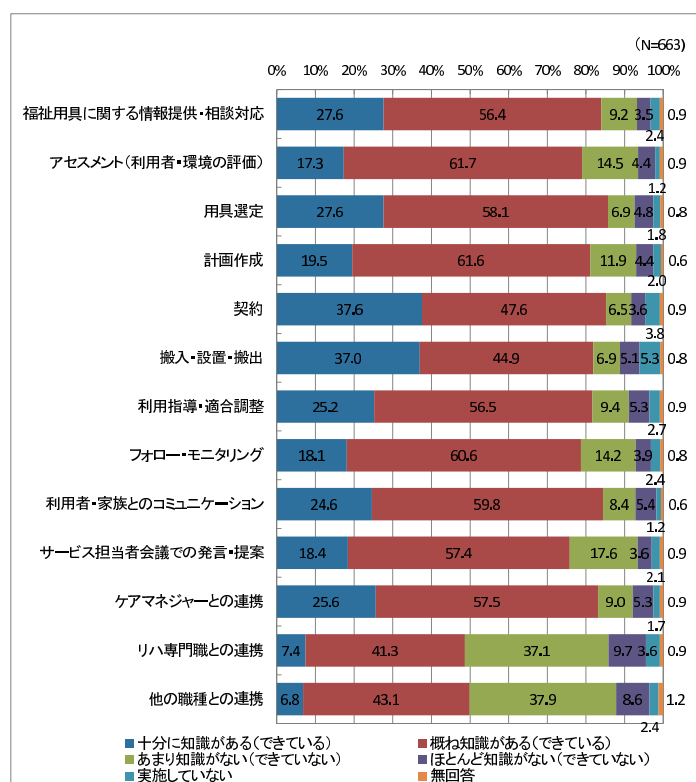
③ 業務遂行能力

事業所管理者による評価、福祉用具専門相談員による自己評価はともに、「十分できている」「概ね出来ている」の合計の割合はほぼ8割～9割で、「リハ専門職との連携」「その他の職種との連携」は5割程度と低くなっています。

図表 8 業務遂行能力（事業所管理者による評価）



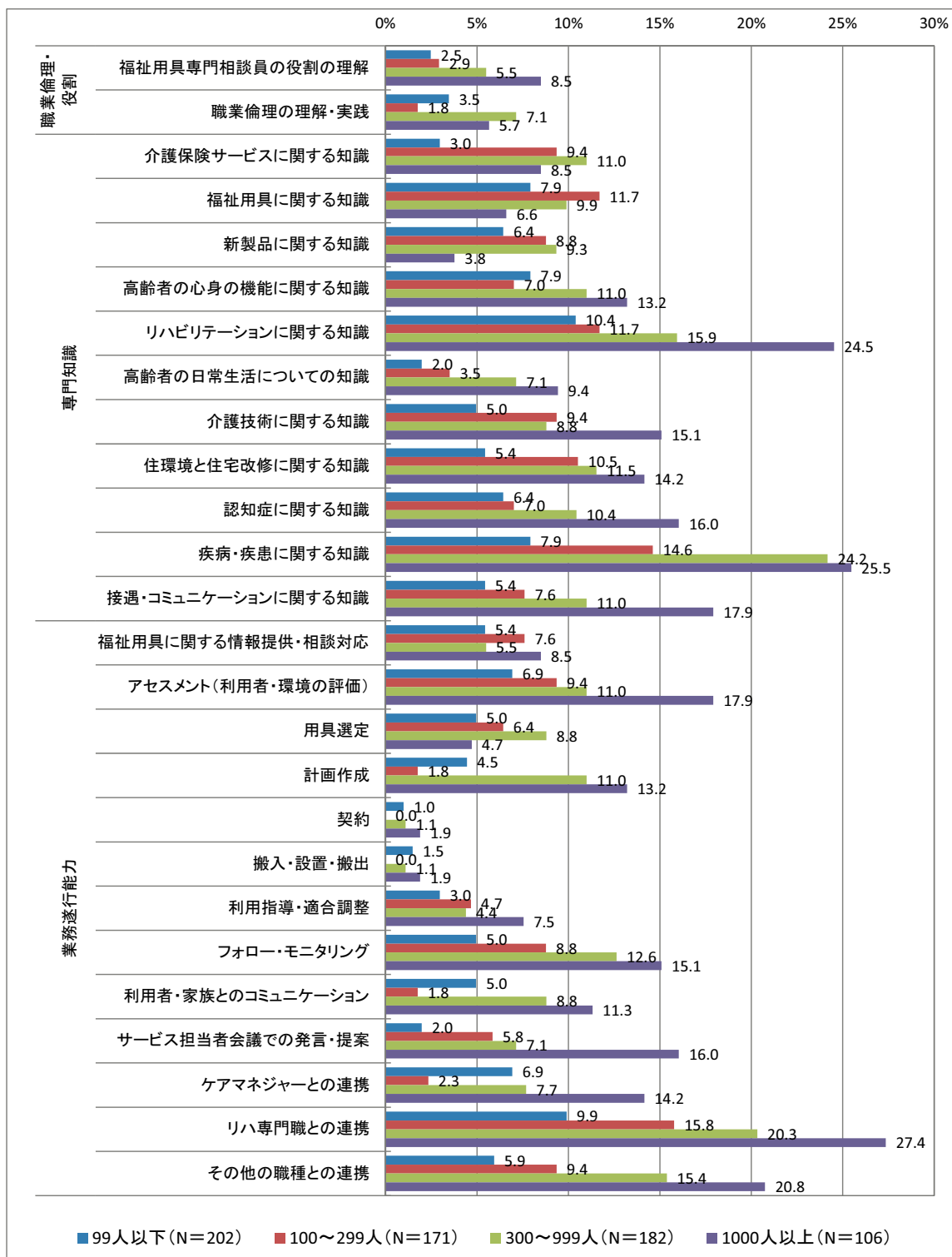
図表 9 業務遂行能力（福祉用具専門相談員の自己評価）



今後、強化したい（特に力を入れて育成したい）項目

「疾病・疾患に関する知識」「リハ専門職との連携」が比較的多くなっています。利用者数の多い、規模の大きな事業所のほうが、一般的に強化したいと回答する割合が高く、介護保険サービス、福祉用具、新製品に関する知識は、中規模の事業所が多く回答しています。

図表 10 今後、強化したい（特に力を入れて育成したい）項目

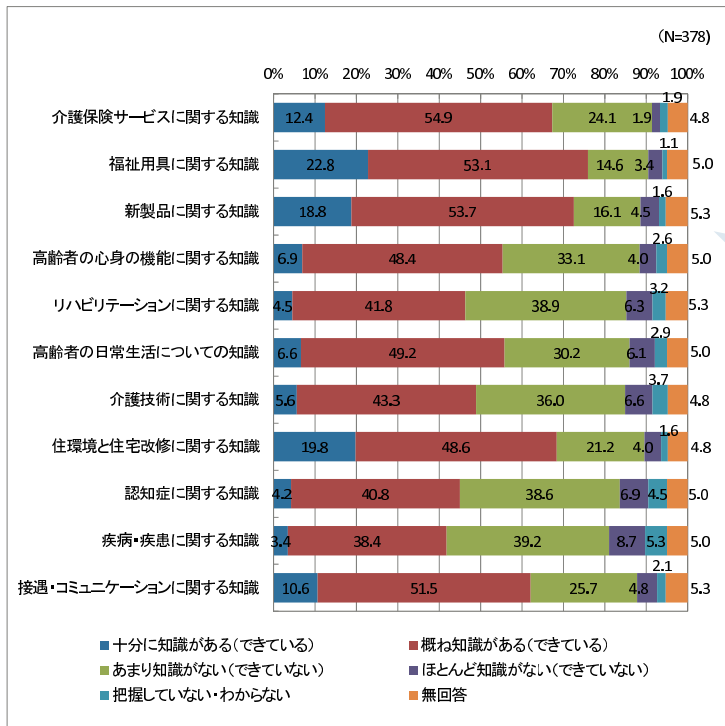


介護支援専門員による福祉用具専門相談員の評価

介護支援専門員には、日ごろ関わりのある福祉用具専門相談員について、「平均的な福祉用具専門相談員」と「信頼できる福祉用具専門相談員」の2つに分けて、専門知識と業務遂行能力を評価していただきました。

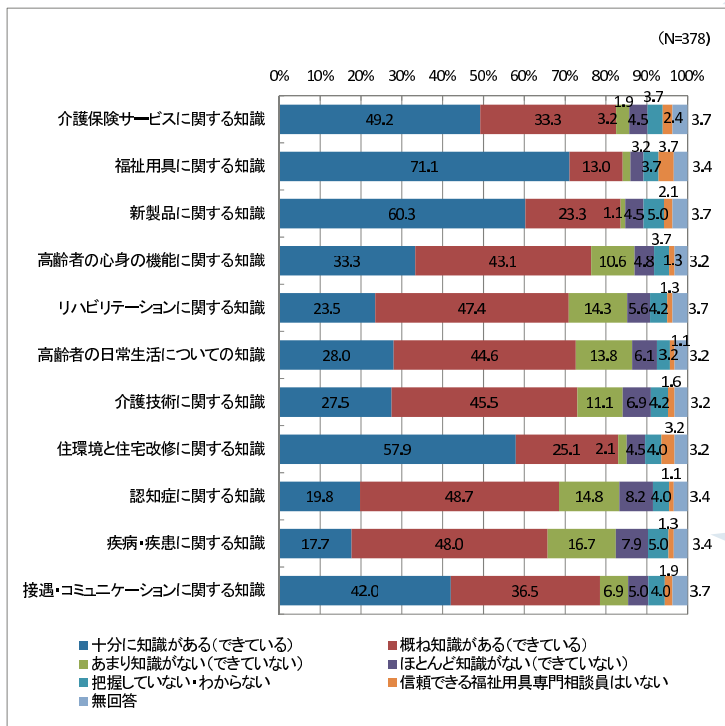
① 専門知識

図表 11 専門知識（平均的な福祉用具専門相談員）



「介護保険サービスに関する知識」「福祉用具に関する知識」「新製品に関する知識」「住環境と住宅改修に関する知識」「接遇・コミュニケーションに関する知識」では、「十分に知識がある(できている)」「概ね知識がある(できている)」の合計が6割を超えています。

図表 12 専門知識（信頼できる福祉用具専門相談員）



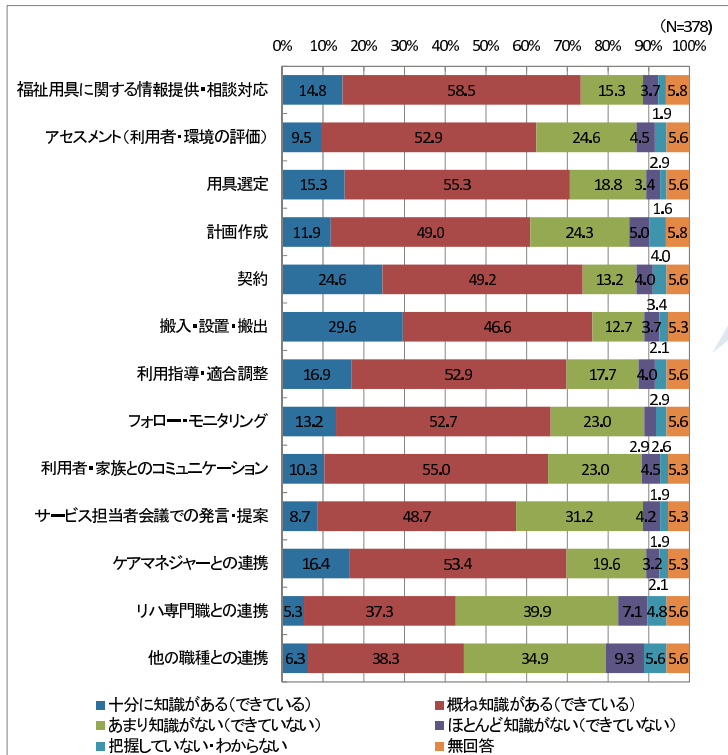
「介護保険サービスに関する知識」「福祉用具に関する知識」「新製品に関する知識」「住環境と住宅改修に関する知識」では、「十分に知識がある(できている)」「概ね知識がある(できている)」の合計が8割を超えています。

特に「福祉用具に関する知識」は「十分に知識がある」が約7割、「住環境と住宅改修」は約6割と高く評価されています。

比較的低いのは、「認知症」「疾病疾患」に関する知識ですが、「十分に知識がある」が約2割、「概ね知識がある」まで含めると6割を超えていました。

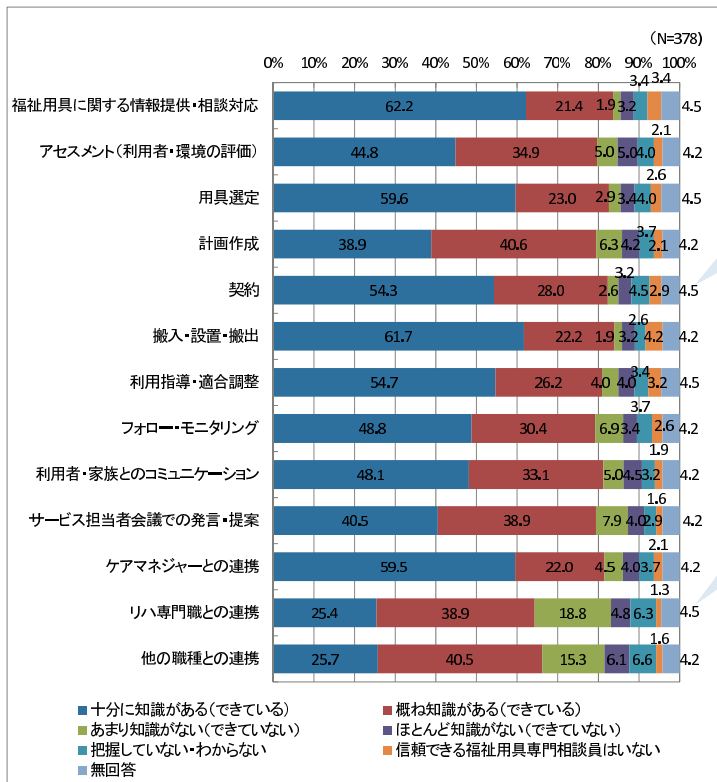
② 業務遂行能力（平均的な福祉用具専門相談員）

図表 13 業務遂行能力（平均的な福祉用具専門相談員）



「福祉用具に関する情報提供・相談対応」「用具選定」「契約」「搬入・設置・搬出」「利用指導・適合調整」「ケアマネジャーとの連携」では、「十分に知識がある(できている)」「概ね知識がある(できている)」の合計が約7割を超えています。

図表 14 業務遂行能力（信頼できる福祉用具専門相談員）

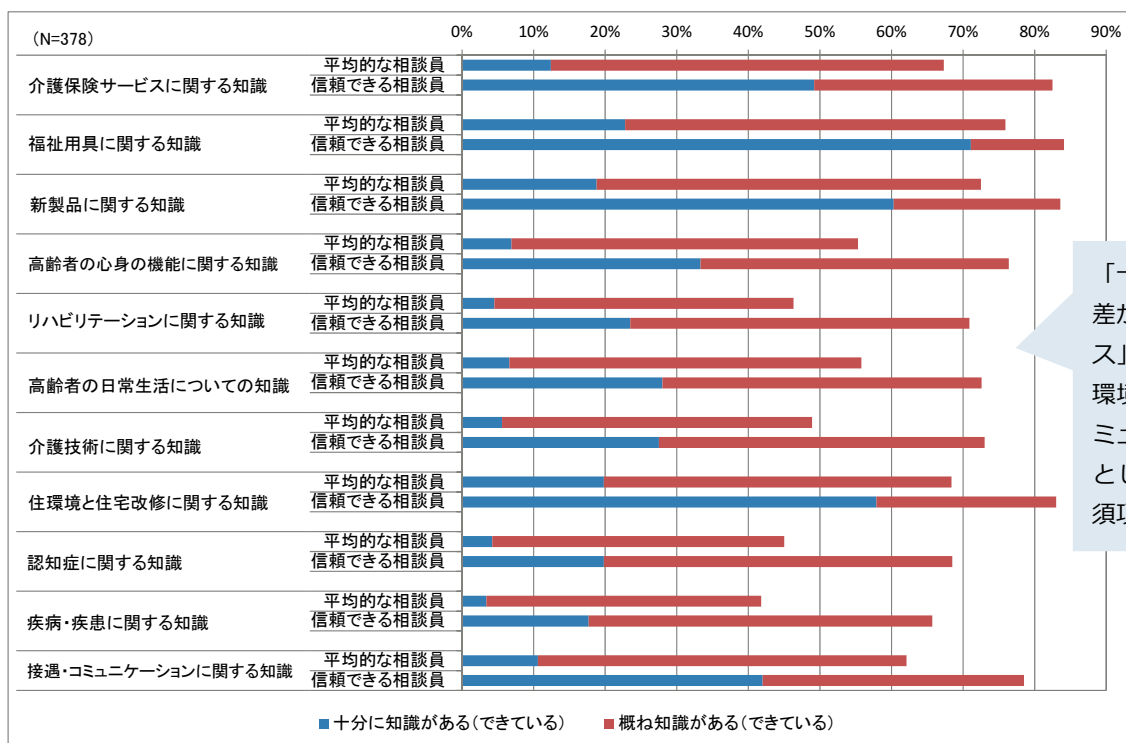


ほとんどの業務において、「十分に知識がある(できている)」「概ね知識がある(できている)」の合計が約8割を超えていますが、「リハ専門職との連携」「他の職種との連携」では7割未満となっています。

「十分にできている」の割合が「リハ専門職との連携」「その他の職種との連携」では25%程度とやや低いものの、その他の項目については4割～6割程度と高い評価になっています。

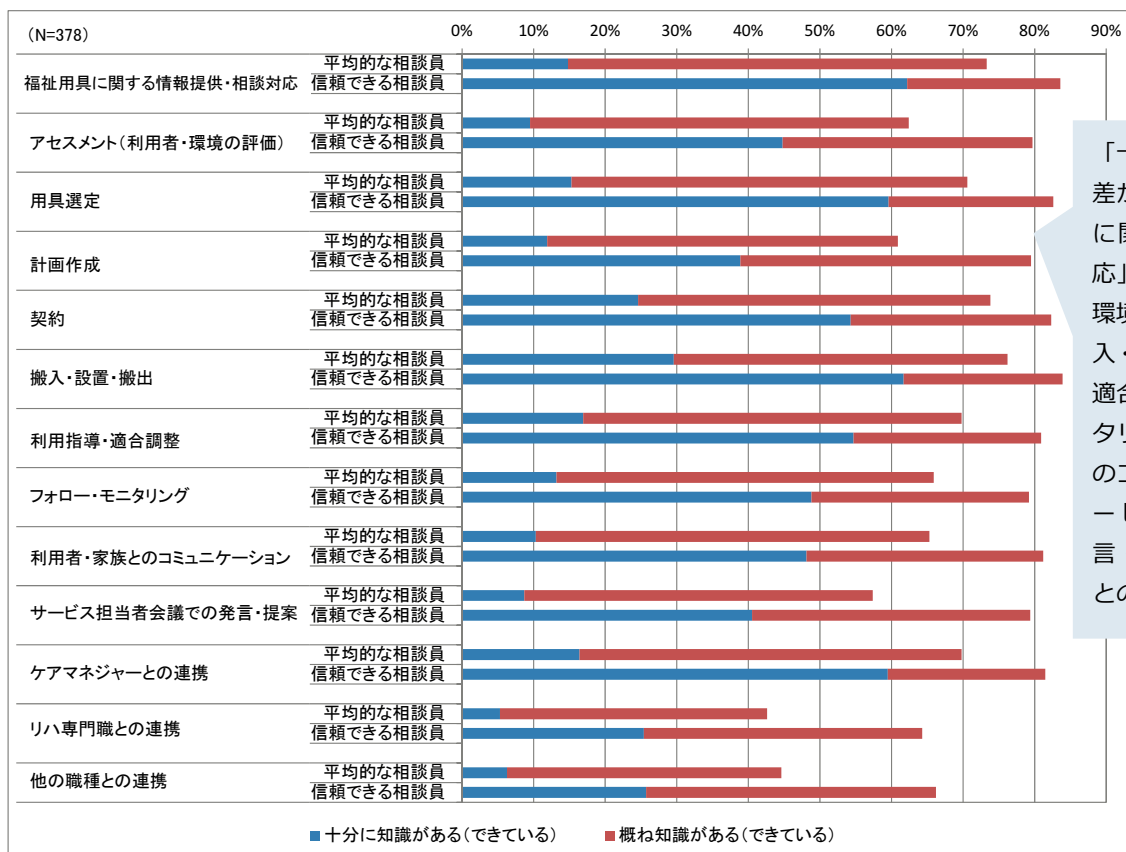
介護支援専門員による「平均的な福祉用具専門相談員」「信頼できる福祉用具専門相談員」に対する評価を比較して、信頼されている福祉用具相談員が備えている知識や能力について把握しました。

【専門知識】



「十分できている」の割合の差が大きい「介護保険サービス」「福祉用具」「新製品」「住環境と住宅改修」「接遇・コミュニケーション」は専門職として信頼を得るための必須項目と考えられます。

【業務遂行能力】



「十分できている」の割合の差が大きいのは、「福祉用具に関する情報提供・相談対応」「アセスメント(利用者・環境の評価)」「用具選定」「搬入・設置・搬出」「利用指導・適合調整」「フォロー・モニタリング」「利用者・家族とのコミュニケーション」「サービス担当者会議での発言・提案」「ケアマネジャーとの連携」です、

「専門的知識・経験を有する福祉用具専門相談員」について

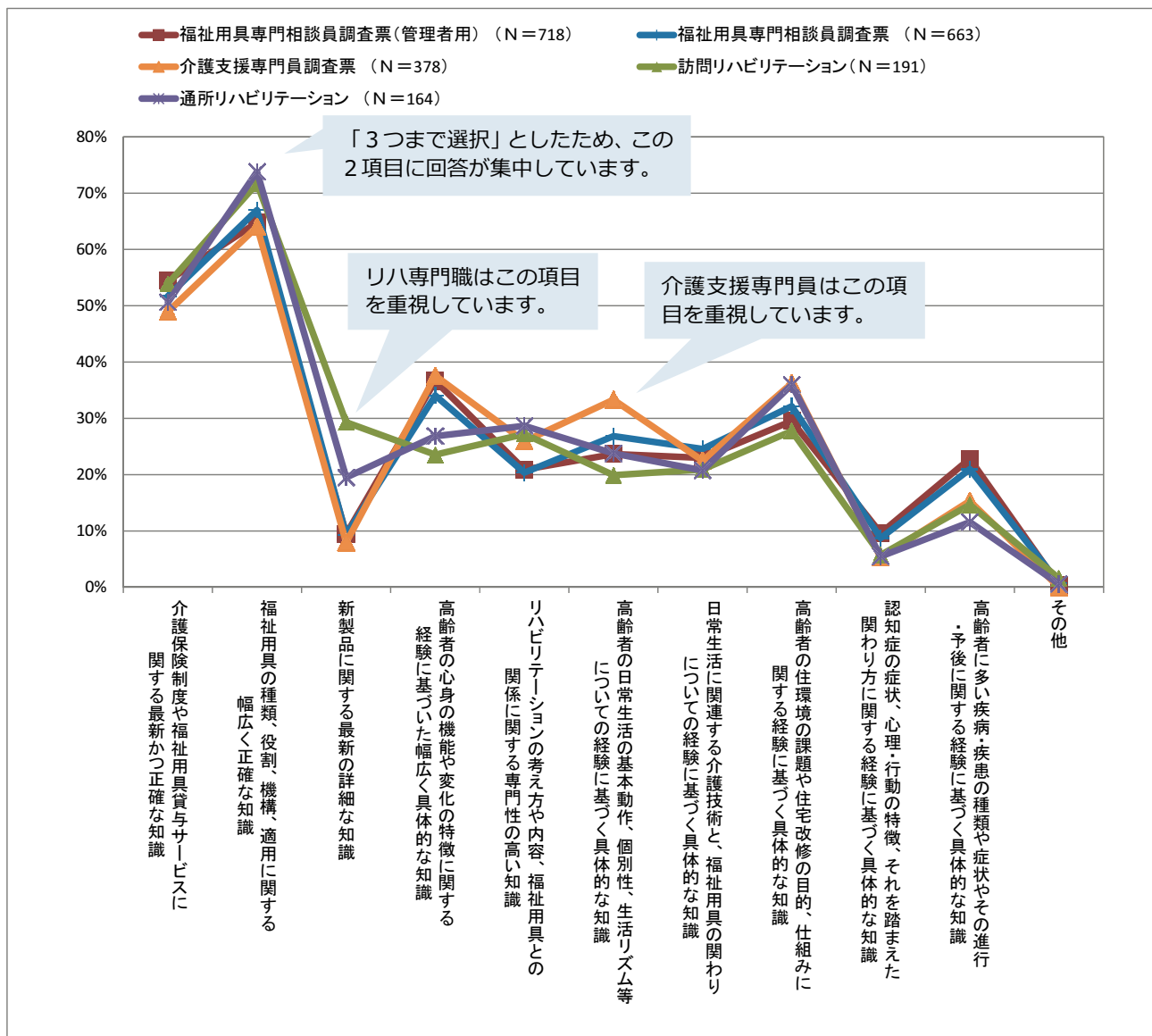
「専門的知識・経験を有する福祉用具専門相談員」として、「事業所に配置される福祉用具専門相談員のうち、特に専門性が高く、指導的な役割を果たす福祉用具専門相談員」を想定し、求められる知識や役割【能力について、福祉用具専門相談員のほか、介護支援専門員、リハ専門職の方々にご意見を求めました。

「専門的知識・経験を有する福祉用具専門相談員」に求められる知識

管理者と福祉用具専門相談員の回答はほぼ同様の結果となっています。

介護支援専門員もほぼ同様で、「高齢者の日常生活の基本動作、個別性、生活リズム等についての経験に基づく具体的な知識」の割合がやや高くなっています。

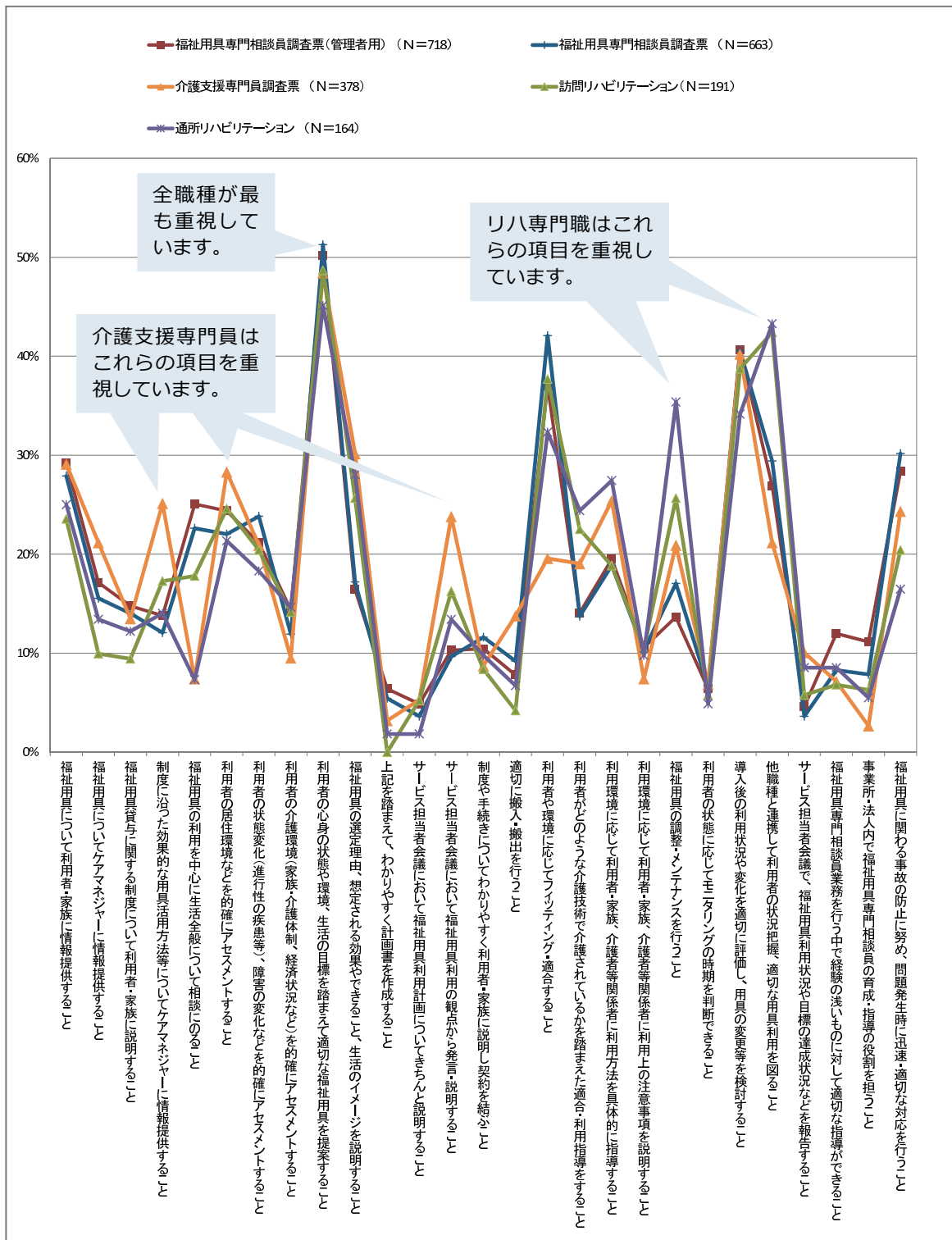
図表 15 「専門的知識・経験を有する福祉用具専門相談員」に求められる知識



「専門的知識・経験を有する福祉用具専門相談員」に求められる役割（能力）

「専門的知識・経験を有する福祉用具専門相談員」に求められる役割（能力）は、いずれも「利用者の心身の状態や環境、生活の目標を踏まえて適切な福祉用具を提案すること」が、5割程度で多くなっています。

図表 16 「専門的知識・経験を有する福祉用具専門相談員」に求められる役割（能力）



「専門的知識・経験を有する福祉用具専門相談員」に期待する役割

介護支援専門員、リハ専門職は、3)「専門的知識・経験を有する福祉用具専門相談員」に対して、どのような場面でどのような役割を期待しているのか尋ねたところ、以下のような回答が寄せられました。

【介護支援専門員専門員からのコメント】

■全般

- ・ 福祉用具を利用する事でどのように効果が表れるか、具体的な説明をしてほしい。
- ・ 適切な時期にアセスメントを行い予後予測や福祉用具等の変更が必要な時に情報提供してほしい。
- ・ 豊富な知見で専門職としてトータルでアドバイスできる様な相談員が望ましい。
- ・ 信頼できる福祉用具専門相談員〇〇から助言を受けて借りた△△というように、個人レベルで信頼感があり、何でも相談できるような役割を担ってほしい。
- ・ 利用者、家族へ十分な説明、家族と信頼関係を築く。
- ・ 危険を感じられる判断力、洞察力を身に付けてほしい。用具の危険性についてもきっちりと伝える役割を期待。

■相談、アセスメント、介護サービス開始に際して

- ・ ケアマネジャーと自宅訪問を一緒にしてサービス開始前に敏速に動いてほしい。
- ・ 住環境及び生活行動を想定したアドバイスを発言できる様な役割を期待したい。
- ・ 生活全体をとらえ、住環境整備についての助言をしてほしい。
- ・ 多くの情報があり環境や本人に合った福祉用具の選定に迷うとき適切な福祉用具の情報を提供し一緒に考えてもらいたい。
- ・ 福祉用具の使い方を具説明体的に説明し、どのような状況になった場合、再検討が必要か具体的に提案してほしい。
- ・ 福祉用具の柔軟な活用方法の提案（規定どおりの使用方法だけではなく、利用者個々の状態に合わせ、アレンジした利用の方法など）。

■ケアプラン作成時

- ・ 一般的に高齢者に多い疾患や障害以外にも希少ニーズにも対応できる。
- ・ ケアマネジャーのアセスメントをしのご、適切なアセスメントと用具の選択。
- ・ 利用者が望む暮らしを支援者が連携しチームになって関わる中で、それぞれが専門性を発揮すると他の支援者との調整、調和を図っていく必要があり、積極的に参加してほしい。
- ・ 廃用、褥創に関連した環境設定の提案。

■担当者会議（参加姿勢）

- ・ 生活の課題点改善に向けて積極的に福祉用具の提案をしてほしい
- ・ 用具の宣伝ではなく制度や介護技術に関するしっかりとした知識、技術を持ち、アドバイスや情報提供していただけることを望みます。
- ・ 適切な発言が出来るように利用者一人一人の状態を把握し、積極的に提案、臨機応変に対応する。
- ・ 利用者の自立支援、安全確保の観点から人による介護にかわる用具や誰にも容易に利用できるような制度の活用など提案してほしい。

■ サービス担当者会議、用具の選定（専門性）

- ・ 身体状況に応じた高齢者の身体変化や病状経過の知識を高め、適切な用具や変更について提案頂きたい。
- ・ 利用者の状況や ADL、家族の状況、経済状況、介護状況、家族関係を把握し、用具の適切なアドバイス、提案していただくこと。
- ・ 残存機能を損なう事なく、機能の維持・向上、生活の質の向上ができる新たな福祉用具の提案ができることを期待する。それを利用者になりやすく説明できるようにする役割も期待する。
- ・ 用具が自立のさまたげになっているかいないかアセスメントし、ケアマネに意見が言えること。
- ・ 予後が不安な方でも、ある程度予後を見越した選定や説明ができ、在宅をイメージした事がしっかり提案できることを期待する。
- ・ 生活状況、介護状況、住環境、利用サービスをふまえ、自立に向け福祉用具を利用することでの効果や評価（モニタリング、変更の必要性）など適切な意見がほしい
- ・ 本人の環境、状態をふまえ、自立支援に向けた目標達成のため意見を出してほしい。

■ 退院時あるいは利用者の居宅での対応

- ・ 院内のセラピストや訪問リハ、デイケアのセラピスト等と協同して福祉用具の選定提案ができる。
- ・ 限られたアセスメント状態であっても適切に福祉用具を提案し、搬入が行える力量を期待。
- ・ そうした環境調整について迅速かつ適確な対応を行う。
- ・ ご本人の状態、体調などに見合った福祉用具を選択、提案し、環境を整えることで自立を促す役割を期待する。本人が安心して在宅生活を送れるようにアドバイスできること。
- ・ 例えば、皮膚の状態や病状などを説明し、予後予想も含め進行する症状に対してその時々に適したより良い用具を提案する。
- ・ 利用者や家族の希望と適合を調整、説明し、安心感を持たせる。一方的に押し付けない。
- ・ 家族は在宅介護が遂行できるか不安な状態。ケアマネと一緒に色々な方法論を提案し、在宅でも介護できる事を家族に理解してもらおう。その一助になってもらいたい。
- ・ 購入品、レンタル品の利用状況をきちんと把握してケアマネに報告すること。
- ・ 専門家としてより専門的な提案、OT や PT との連携などの役割を期待する

■ 利用者に変化があった時

- ・ アセスメント、用具の選定、搬入・搬出等迅速、適切な対応。
- ・ すぐに利用者宅を訪問し確認を取り、ケアマネジャーと共に用具の選定を行う。ケアマネジャー自身わからない時はリハ専門職と共に関わり、今の状態に適した用具を選定し介護者や本人の負担を減らす。
- ・ 利用者の状態や介護者の介護技術や生活環境を踏まえ、利用者様にどの様な福祉用具の選定が望ましいのか指南してもらいたい。
- ・ ケアマネジャー、家族に福祉用具の変更や適切な利用方法をアドバイス、適切な悪化防止等を提案。
- ・ 専門性を生かし、ケアマネジャー不在でも本人、家族、関係者に安心していただける対応を期待。
- ・ 状態に応じて選択肢をいくつか挙げ、それに対してメリット、デメリットを説明し、見通しを持った発言がほしい（専門職としての意識を持ってほしい）。
- ・ 今後おきる状態変化についての福祉用具変更や使い方の予測などのアドバイスできることを期待。
- ・ 様々なリスクを避ける用具選定のアドバイス、本人の残存機能を活用するような選定のアドバイス。
- ・ ケアマネジャーよりも利用者とのコミュニケーションを取り、福祉用具選定以外にも対応してほしい
- ・ ケアマネジャーから言われた事以外でも、ヘルパー等のサービスではなく福祉用具でも日常生活が安全に行える提案を出してほしい。

■ モニタリング

- ・ 定期的に訪問して福祉用具の点検をし、安全性を確認すると同時に福祉用具専門員自体への信頼を持ってもらい、ケアマネジャーでは知りえない情報を提供。 チームケアの一員として力を発揮してほしい。
- ・ ただ調整メンテナンスするだけでなく、利用者についてアセスメントを行い、家族や事業者等に適切な情報提供、提案などする役割。
- ・ 選定した用具が適しているか状態確認し、より安全性の高いものを提案するなどを期待する。
- ・ モニタリングの内容を適切な時期に具体的に伝えることができる。

■ 住宅改修

- ・ 利用者の身体的特徴を理解し、改修箇所や各々の内容（手すりの高さ等）を判断する。利用者の意向を尊重し、柔軟な対応をする
- ・ 居住環境に適した改修についてのアドバイス、改修の内容について具体的な提案。
- ・ 適切な改修説明を行い、改修することにより、生活面における改善点を的確に伝える役割。

■ 困難対応

- ・ 在宅介護で困った（行き詰った）場面で、福祉用具活用で介護支援、介護負担の軽減を提案できる。
- ・ 家族と利用者の意見が一致していない場面（またはケアマネジャーとサービス事業所の意見不一致の場面など）で利用者の状態や家族の介護能力をきちんと把握し、今後の生活を予測しての説明や指導をお願いしたい。
- ・ 利用者に必要な福祉用具を家族が了解せず事故が想定される時、福祉用具専門相談員の方々の専門的知識、経験から、適切な助言や福祉用具の選定などについて支援していただきたい。

■ その他

- ・ 在宅での支援の経験を元により求められる製品の開発の提案や要望など、メーカーなどに積極的に働きかける。
- ・ 自治体での医療介護の連携の研修のパネリスト等になる。医療退院後、在宅で生活するということはどういうことか、在宅生活での福祉用具の重要性をもっと医療従事者に理解してもらう。

【リハビリテーション専門職からのコメント】

■全般

- ・ 利用者の身体状況や生活環境、生活習慣に応じた福祉用具の詳しいアドバイスいただきたい。
- ・ 家族、利用者、ケアマネジャー、施設職員等へ情報の提供、物品を使つての実習など行う役割を期待する。
- ・ 実際に生活の場を確認して必要と考えられる福祉用具を複数検討し、アフターケアを充実させる。より良い福祉用具があればその更新も提案してほしい。
- ・ 利用者の状態変化や介護環境を的確にアセスメントし、利用者への適合、利用方法を具体的に指導し、その後の利用状況・変化を評価し、変更を検討できれば理想

- ・ 福祉用具についても幅広い選択肢を提案し、積極的に多職種と連携して頂きたい
- ・ 利用者の状況を確認し、必要時には通所リハ等の事業所等にも積極的に提案してほしい
- ・ ケアマネジャーやセラピスト（PT、OT）などとコミュニケーションできる人材育成が必要。事務所の経営的な事よりも利用する人の事（ADL など）を考えた行動をしてほしい
- ・ 福祉用具の種類、使い方など、ケアに関わる方々に知ってもらうことにより、多職種の視点から用具の提案が出てくる。リハビリスタッフだけでなく、介護者、介護士、ケアマネへの情報発信してほしい。

■退院時カンファレンス、サービス提供担当者会議、居宅訪問指導に際して

- ・ 退院前より関わりを持ち、本人の心身や生活環境などを他職種とアセスメントし、福祉用具専門相談員としての必要用具の提案を行う。
- ・ 病院や医院から要望があれば、退院・自宅復帰を控えた患者、家族に対し福祉用具の説明をしてほしい。

- ・ 経験による幅広い知識をサービス担当者会議等の場面で提案してほしい。PT、OTの専門知識も生かして協働できることが大切。
- ・ 福祉用具、貸与に関する制度、経験に基づいてサービス担当者会議、退所時カンファレンス、家屋訪問指導で具体的な助言、提案をして頂きたい
- ・ 先々の変化の見通しとそれに伴う福祉用具利用の変化に関する見解を発信し、利用者、家族から信頼を得られるような存在になってほしい
- ・ 貸与やメンテナンスだけでなく、利用者の変化に応じて福祉用具専門の観点から一緒に検討し、福祉用具を使用した介助方法などについても家族に指導、アドバイスすることが必要。
- ・ リハ専門職が居宅でイメージしていることが可能なのか、他の手段があるのかなど、話し合いがしやすい。
- ・ 担当者会議等リハ、ケアマネジャーと協同の場では、導入対象者の背景、因子、能力を十分に情報提供できるように努めてほしい。
- ・ その用具を使用することによる利点や使用上の注意点を「福祉用具の専門（家）」という立場を持って説明する役割を期待。
- ・ 身体状況やADL能力などリハ専門職が伝える情報に基づいて最良の用具を選定してほしい。
- ・ 福祉用具を利用することでどのような生活ができるかを利用者、家族、他職者へ伝える。

■ 用具の選定に際して

- ・ 身体機能の低下により生活状況が変化した場合、環境改善により介護負担軽減を求められた場合、適確に心身の状況を把握し適した福祉用具の選択、利用方法の指導、利用者に適合しているかを評価する。
- ・ 推奨する用具を1つではなく複数提案してほしい。利用者の要望だけでなく、他サービスの状況も踏まえて提供してほしい
- ・ 福祉用具で対応できることを最大に活かしてほしい。利用者の個性に合わせ、安全に生活を過して頂けるように相談できる人がいてほしい

■ 退院、退所後、居宅での対応

- ・ 利用者の身体変化に応じた福祉用具の選出と、それに関する詳しい説明をしてもらいたい。
- ・ 一緒に同行してもらい住宅改修や必要な福祉用具を検討してほしい。
- ・ 福祉用具の選定理由、想定される効果やできること、生活のイメージを説明すること。
- ・ 福祉用具にのみ頼るのではなく、利用者の状態に応じて、能力が生かして必要最小限の住宅改修や福祉用具の使用を提案する。
- ・ 家族の介護負担を軽減でき、安全に在宅生活を過せるような福祉用具の使用を提案する。
- ・ 住環境、同居家族の生活の支障の有無、デメリットがないかどうかを福祉用具の視点で考えてほしい（利用者本人の状態はケアマネはじめリハ職が情報提供できる）。
- ・ 利用者の予後を予測した住宅改修や福祉用具の選定。
- ・ 必要に応じて本人、家族とリハ職の間に入って頂き、利用者の状態変化、福祉用具の使用状況など情報の橋渡しをしてほしい。
- ・ リハ専門職と共同でより良い生活環境を整える。さらにその経験をもとに単独でも生活環境整備に関する支援が実施でき、必要に応じて連携、調整が行えることを期待する。
- ・ 常に専門的に判断を提供し、他職種と連携して今まで以上に利用者が安心して安全に生活できるようにする。他職種もスキルアップが必要。
- ・ 他職種と連携して選択した福祉用具の利用目的を適確に把握し、選択、フィッティングできる。
- ・ 利用者の状態を他職種より情報収集し、その方に一番合った福祉良具を福祉用具専門職として主体的に検討、提案してほしい。
- ・ リハビリテーション及び医学的な知識を有し、専門的な用語でコミュニケーションでき、利用者様の状態に合わせて福祉用具の選定ができる事
- ・ リハ専門職と一緒に身体、能力を評価した上で、家屋調査を実施し、協働して福祉用具の選定やフィッティングを行う
- ・ 通所事業所内でのリハビリテーション、生活場面で外出先と自宅の利用状況の評価で違いを確認し、画一的ではなく生活場面に応じた多様な福祉用具の情報を提供する
- ・ 定期的な福祉用具の講習、操作の説明など

■ 事業所向けの情報提供

- ・ 施設職員に福祉用具の利用事例、新しい福祉用具の情報などを情報提供する。周知することで、その施設に関わる利用者の福祉用具の適否を評価できる。施設から事業所への相談も円滑に行え、多くの方に対応しやすくなるのではないかと

■ 困難事例対応

- ・ 進行性疾患や神経難病等、動作能力の向上が難しく、一般的な用具の利用がしづらい利用者への対応では、利用者の残存能力に合わせて、効果的な用具の使用や指導を期待する。